



雲はふつう10種類に分けられます。すぐも(絹雲)、おほろぐも(高層雲)、ひつじぐも(高積雲)など皆さんが知っておられる雲も多いと思います。そして中には変わった雲やまた雲によって起こるおもしろい現象もあります。今日はこれらについて、お話し致しましょう。

月にかさがかかるという現象を見られた方も多いいと思います。童謡にも「雨降りお月さんかさの中…」と歌われているように昔から月にかさがかかると天気が悪くなると言われていました。それでは太陽にかさがかかるというのはご存知でしょうか。月のかさは夜なのでちょっと空を見ればすぐに気づくでしょうが、太陽のかさとなると注意していないと見逃すことが多いようです。太陽のかさは、青空に白いベールをかけたように広がった絹層雲の中の氷晶(小さい氷の結晶)に太陽の光がぶつかってできるもので、ふつうは半径が 22° の内がさが見えます。たまに内がさより大きい半径が 46° の外がさが見えることもあります。これは内がさより大分鮮明さに欠けています。私は



太陽のかさ



ブロッケン現象

この一部分を見たことはありますがまだ全体を見たことはありません。虹の場合もふつう言うところの半径 42° の大きさの虹(主虹といいます)の外側に半径 50° の副虹がかすかに見えることがあります。先日、主虹と見間違うほど明るい副虹を見たときには圧倒されてしまいました。主虹にいたっては、輝くばかりに明るかったからです。そのうち、この虹のように大変明るい内がさと外がさが見えるのではないかと期待しています。この太陽のかさも天気が悪くなる前兆です。私が見ている限りでは、その日の夜か翌日には雨が降ることが多いようでした。太陽のかさが出ている時に飛行機雲の見えることがあります。この雲にはできてからすぐ消えるものから、なかなか消えないで空を一文字に走るものまでいろいろありますが、かさがある場合は、空を一文字に走るものが多いようです。飛行機雲は寒冷で湿った大気中を飛ぶ飛行機のエンジンから出る水蒸気を含んだガスが急に冷やされて雲になるものです。この雲がなかなか消えないでききほどのようになると、天気が悪くなることが多いそうです。ところで、飛行機に乗っていてもおもしろい現象を見ることがあります。窓から下の雲の方へ目をやると、飛行機の影が雲に映り、そのまわりに内側が青で外側が赤い色をした光の輪が見えるものです。これは雲の中の水滴によって太陽の光が回折を起こしてできるものでブロッケン現象といわれています。

この他にも昔は端雲と呼んでめでたい現象としていた彩雲など、雲を見ているといろいろおもしろい現象がみられます。機会があったら空を見上げて雲を見て下さい。何かおこるかもしれません。

(よしむら ひろよし 天文担当)